# 新・鳥羽市水産研究所～世界に誇れる水産研究拠点を目指して～

## 現状と課題

◆鳥羽市水産研究所は、昭和 39 年４月の開設以降、藻類（クロノリ・ワカメ等）の種苗生産を中心に、藻場造成などの調査研究事業、藻類養殖事業にかかる現地指導等を、漁業者目線に立って業務を行ってきました。
◆事業を展開する中で、これまでも必要に応じて施設修繕を行ってきましたが、経年劣化による老朽化が見られるようになっています。
◆研究所が担うべき役割は本市にとって大きな意義があるものの、離島（坂手島）に位置していることから、アクセス面の問題など関係機関との連携が図り難い現状にあります。

## 目指すべき方向性

★鳥羽市水産研究所を拠点とし、地域の水産業等の活性化を目指します。
★恵みある水産資源が増え、持続可能な漁業が営まれている環境創出を目指します。
★多分野連携により、地域生産力や地域経済の向上を目指します。
★研究所の存在を多くの方々に知ってもらい、様々な人たちの交流促進による賑わい創出を目指します。

## 施設概要

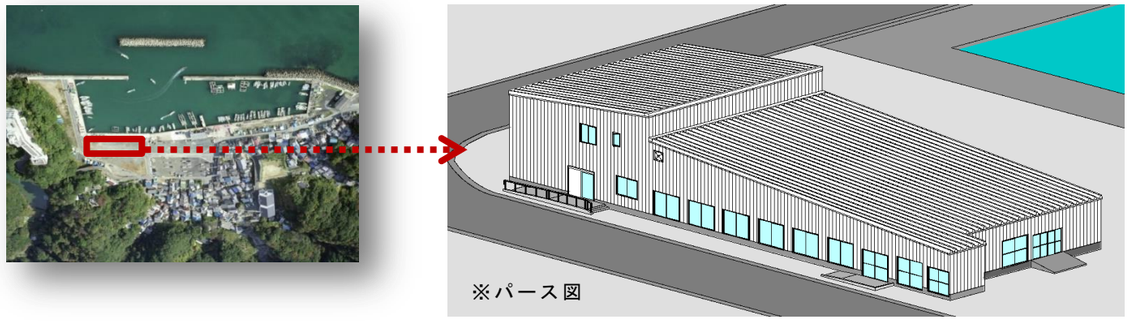
| 【水産研究所建設事業】 | | 事業期間 | 事業費 | 308,420 千円 |
|---|---|---|---|---|
| 実施主体 | 鳥羽市 | H31.4～H32.3 | 内国費 | 154,210 千円 |

◆施設規模（別添平面図参照）
・鉄骨造一部２階建
・敷地面積 1127.79 ㎡　・建築面積 552.38 ㎡　・延床面積 727.50 ㎡
・事務所棟１階／事務室、研究実験室、恒温室外２室　※トイレ除く計６室
・事務所棟２階／会議研修室、打合せ・資料室外１室　※トイレ除く計３室
・種苗棟／２トン水槽 15 基、30 水槽
◆建設事業費：308,420 千円（地方創生拠点整備交付金１/２を活用）
＜主な内訳＞
・工事監理業務 4,730 千円（委託料）
・新築工事 300,049 千円（工事請負費）　・備品購入費 3,418 千円

水産研究所の新設を『鳥羽・海藻文化革命』のシンボル的事業に！

地域再生計画『鳥羽・海藻文化革命～幸福実感のもてるまちづくり推進計画～』より抜粋
本プロジェクトでは、鳥羽の海藻をテーマに様々な事業により各分野に革命を起こし、新たな旅行商品や見どころ、グルメを増やし、それを求めてやってくる人々の交流が生まれることによる地域経済の発展と、活気あふれるまちの姿を見出し、主要産業である水産業と観光業の持続的な発展を目指していく。

## 建設場所




## 新・鳥羽市水産研究所の活用方法

鳥羽の海が持つ「強み」を最大限に活かすため、次の７つのキーワードにより、本市の活性化につながる様々な事業展開を図っていきます。

| 鳥羽の「海」の強みを活かす７つのキーワード | |
|---|---|
| 研究拠点 | 近隣には、三重大学水産実験所、名古屋大学臨海実験所、鳥羽商船高等専門学校、国立増養殖研究所等の多くの教育・研究機関が集積していることから、これらの機関との連携をより深め、地域課題の解決はもとより、海藻を始めとした水産物を国全体、更には世界に認識させる力を引き出していく取り組みにつなげていきます。 |
| 生産向上 | ブランド力のある高品質な種苗生産に取り組み、生産性の向上を目指します。また、稼ぐ力を蓄え、持続可能な漁業につながるような研修の機会を設け、漁業の事業継承を目指す他、漁業者が新たな加工品を試作する場としての利用促進も図ります。 |
| 現場実践 | これまで培ってきた知見や、共同研究により新たに得た成果等を漁業者等に提供し、現場での実践につなげていきます。また、所内に併設する研修室を活用し、漁業者向けの研修会を開催するなど、より漁業者に寄り添った取組みを進めていきます。 |
| 教育拠点 | 市民団体や小中高等学校の視察を受入れ、本市が誇る水産業を幅広く発信し、将来を担う子どもたちの人材育成につなげていきます。また、大学の長期休暇を活用し、大学生の研修を積極的に受入れ、大学生の研究テーマ等に関与していきます。 |
| 情報発信 | 鳥羽の水産業を広く発信し、多くの方々に知っていただく機会を創出するため、所内に海藻関係を中心とした資料を掲示する他、資料室に図書室的な役割を持たせることで、様々な情報を知り得る情報発信拠点としての役割を担っていきます。 |
| 観光振興 | 研究所内の設備や研究内容の様子、研究員のアカデミックな知識等を披露できる場として、政策観光や産業観光を促進させ、旅行エージェントとタイアップし旅行商品を造成する等、漁業と並ぶ主要産業である観光業の振興に寄与していきます。 |
| 多分野連携 | その他、スポーツ、芸術、健康、美容など、海藻が持つ可能性を多様な主体と共に見出していき、生産性の向上や地域経済の醸成につながるような取り組みを多分野連携により推進していきます。 |

【定例記者会見資料：鳥羽市農水商工課 190322】